

2021年2月10日
名古屋 NGO センター
中島隆宏・八木巖

JICA—NGO 連携による外国人の地域社会、企業などが受容を可能とする活動案

<背景>

東海市民社会ネットワーク愛知幹事会有志による「外国人支援団体などからの聞き取り調査活動」（2020年9月から2021年1月実施）によって外国人支援に関わる NGO,NPO などの強みは以下のように行政では届かない取り組みを進めていることが分かってきたⁱ。

これらの NGO,NPO は外国人を移民、移住者にとらえ、技能実習生を含む様々な身分の外国人の暮らしと労働を守り、誰も取り残さない取り組みを地域で進めている。これらは外国人が困りごと相談する最初の窓口であり、フォローアップをし、また最後のセーフティネットとなっている。そして地域と外国人を橋渡しし地域と共に解決する。縦割り行政下でコーディネータ的役割も果たす。以上のような NGO, NPO は中小規模が多く現場の対応に追われ、組織や事業の強化が課題となっている。

一方、JICA にとって責任ある外国人労働者受け入れが新たな取り組みとなっており、これらの NGO,NPO などを強化し連携することは、地域の外国人労働者受け入れ環境の改善につながると考える。

<目的>

外国人労働者の受け入れに関して外国人が変わることと同時に、市民と企業など受容側の意識改革が必要であることが、支援をする NGO,NPO のヒアリングからわかってきたⁱⁱ。しかしながら、これら NGO,NPO は現場の仕事に追われ市民や企業の意識改革のための活動に取り組む余裕がないのが実情である。そのため地域のネットワーク NGO である名古屋 NGO センターが JICA 中部と連携しそれぞれのリソース、ネットワークと強みを活用して多セクターで取り組む必要性があると考えます。

日本の地域住民や企業が日本人と決して同じでない外国の人たちを自然に受け入れ、外国人が普通に暮らし、働けるように、市民、企業(雇用主、従業員)の共感を醸成することが求められている。そのために名古屋 NGO センターが JICA 中部（特に外国人材・共生国際協力推進員）と連携し、外国人支援団体（NPO など）、外国人コミュニティ、市民、企業、自治体、行政機関との参加によって以下の活動を実施することを提案する。

<活動例>

JICA 中部と名古屋 NGO センターが協働して以下の啓発活動を企画・実施する。

1. シンポジウム

テーマ：責任ある外国人労働者受け入れ、または日本社会の外国人労働者の受容

パネリスト：JICA(外国人材・共生国際協力の専門家)、多文化共生に取り組む

NPO、企業(トヨタ自動車など)、外国人技能実習機構支部、自治体、外国人コミュニティ

内容：課題の明確化。NPO,NGO の成功例の紹介。JICA の外国人材・多文化共生の

取り組み紹介

2. 異文化エキスポ

テーマ：外国人の異なる文化を受容する意識変化につなぐ

内容：

・各国料理による世界ツアー — プロの料理人が各国の在日外国人とタッグを組んで各国料理を市民に提供

・各国文化紹介 — 各国の外国人コミュニティによる文化紹介とそれに対応した JICA ボランティアによる活動紹介など

i 東海市民社会ネットワーク愛知幹事会有志による「外国人支援団体などからの聞き取り調査活動のまとめ」(2021年1月)を参照。

ii 同上参照